〔畜産農家の声〕

おぼえていますか？ 牛が当たったあの人を！
新見市　小松三郎さん

備中県民局畜産第二班

平成１９年３月１４日にまなび広場新見で開催された、和牛シンポジウムのお楽しみ抽選会で牛が当たった「小松三郎（７６歳）」さんに、お話を伺いました。

小松氏：あの日は寒い日だった。昼は弁当がただで出るからということもあり、和牛シンポジウムに行ったんだ。まあ、私は当たらんだろうなー。と思っていたんだ。しかし、市長が引いた子牛の抽選で呼ばれた名前は、なんと私ではないか！まわりの知り合いが「うわ～」と言っている中、壇上に上がったのを覚えているよ。壇上で引渡式を終えて、市長が私に「で、子牛をどうするの？」とお尋ねになったんだが、私は「よし、飼ってみよう」と思ったんだ。（後々、聞くところによると、飼わないと言ったら牛肉を何回かに分けて送ってもらうというという話しもあったみたいだが・・・）

県民局：お家の方は何と言われましたか？

小松氏：飼うことに不安を覚えながらも家に帰って、妻に子牛が当たったことを言うと、妻は 「福の神さんが来てくれたんだし、長生きの秘訣じゃけぇ、飼えばいい」と言ってくれたんだ。本当に理解のある妻で嬉しかった。

県民局：小松さんは牛を飼ったことがあったんですか？

小松氏：私の家ではおじいさんが昭和１８年ぐらいまで種雄牛を飼っていたんだが、私自身では牛を飼ったことがなかった。これまでは金融関係で働いた後、新見北高校に講師として１年間働いており、ちょうどその任期が切れそうな矢先に子牛が当たったんだ。

県民局：実際の子牛を見てどうでしたか？

小松氏：当たった子牛を農協・市役所の方と神郷にある長久牧場に見に行ったんだが、なんとまだ哺育中で、（家と牛舎が離れているということもあり）人工哺育はとてもできないと思った。だから当選後、しばらくは農協の長久牧場で飼育してもらっており、平成１９年５月２２日に私が引き取ったんだ。

こうして、小松さんはこの日から「１８ながひさ号」と共に毎日を歩んで来られ、

見事、和牛繁殖農家となりました。

県民局：飼い始めてどうでしたか？

小松氏：最初は苦労した。いろいろな農家へ餌のやりかた等を勉強をさせてもらいにいったし、共済や家保の先生、授精師の方にも大変お世話になった。でも、おかげで牛仲間が出来て楽しいし、また子牛ができるとおもしろいものだ。最初の子牛は平成２１年７月８日に雌が生まれ平成２２年４月１６日にセリ売り。次は平成２２年７月１０日に雄が生まれ平成２３年４月２２日にセリ売りした。自分の子供の誕生日よりよく覚えているよ。

県民局：普段の飼養管理については？

小松氏：普段の餌は野草や稲ワラや茅、知り合いからもらった芋づるも乾燥させ餌として与えているし、それらをフレコンバック等でも保存している。また、分娩前は引き運動もしているんだ（県道３２号線を一緒に歩いているそうです）。

県民局：今後はどうされる予定ですか？

小松氏：少し手伝いをしてくれる人がいれば５頭ぐらいまで増やしたいが、それを入れる牛舎もないし、もう１産か２産でやめるかな・・・

小松さん、これからも頑張って下さい。